



発行所 十勝毎日新聞社 千080 帯広市東1条南8丁目 電話-編集 2121、広告 2323、総務・販売 2222 ©十勝毎日新聞社 1987

アメリカ 宇宙開発最前線

ワシントンから南緯・フロリダ州オーランドに降りた。タクシのドアを開けると、眼裏がボンと眩し。それは、開くと三五度だ。見渡す限りの平野を通るハイウェイを突っ走り、ケープカナベラルのケネディ・スペースセンターへ向かった。近づくにつれ、センターがいかにか広がってわかってくる。六万六千五百五十二坪、何と東京二十三区に匹敵するというから驚く。日本の打ち上げ場種子島宇宙センターの実に八十倍だ。

最初、巨大なビルに導かれた。ゲートを通り、気がつくまで三つの飛行体(オービタ)の腹の下にいた。このオービタは、例のシャトルの形をしていて、まさかと思うと訪ねた。「アトランティス」スペースシャトル。返ってきたのは「アトランティス」だった。こんな間近に本物を見れるとは一と思いつき、すっかり感激してしまっていた。アトランティスは一年前、二回宇宙飛行している。確かに腹部が大気圏突入の際生じた高熱で白変化している。

腹部をへきへき、頭部に回って中をのぞくと、ハイテクノロジの機械がぎっしり詰まっている。あんな所々、次回の九月に三度目の宇宙を目指す。

ケネディ宇宙センター

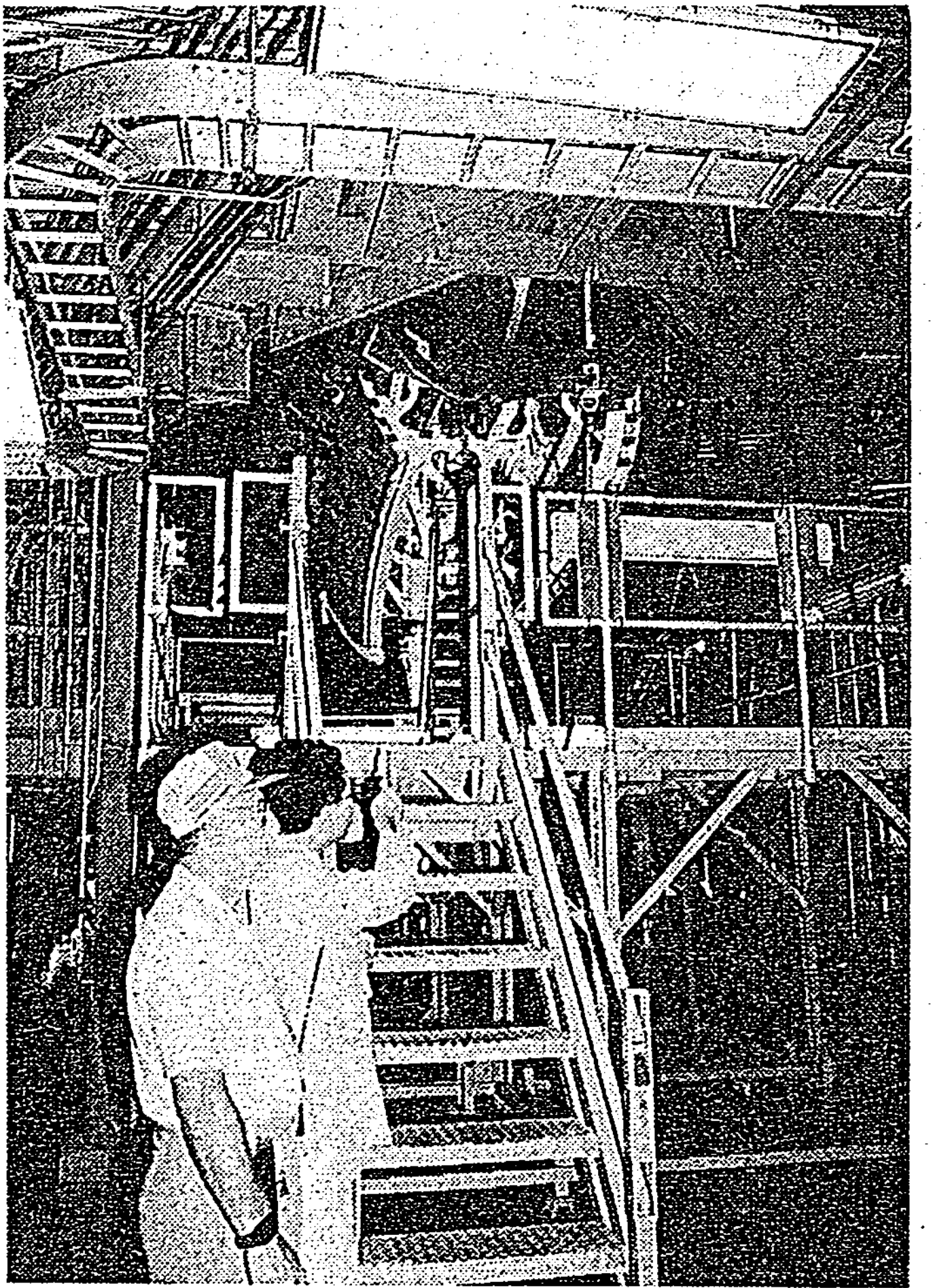
案内役のA・タイア二氏の運転するジープに乗り、頭上にはシャトル！

<2>

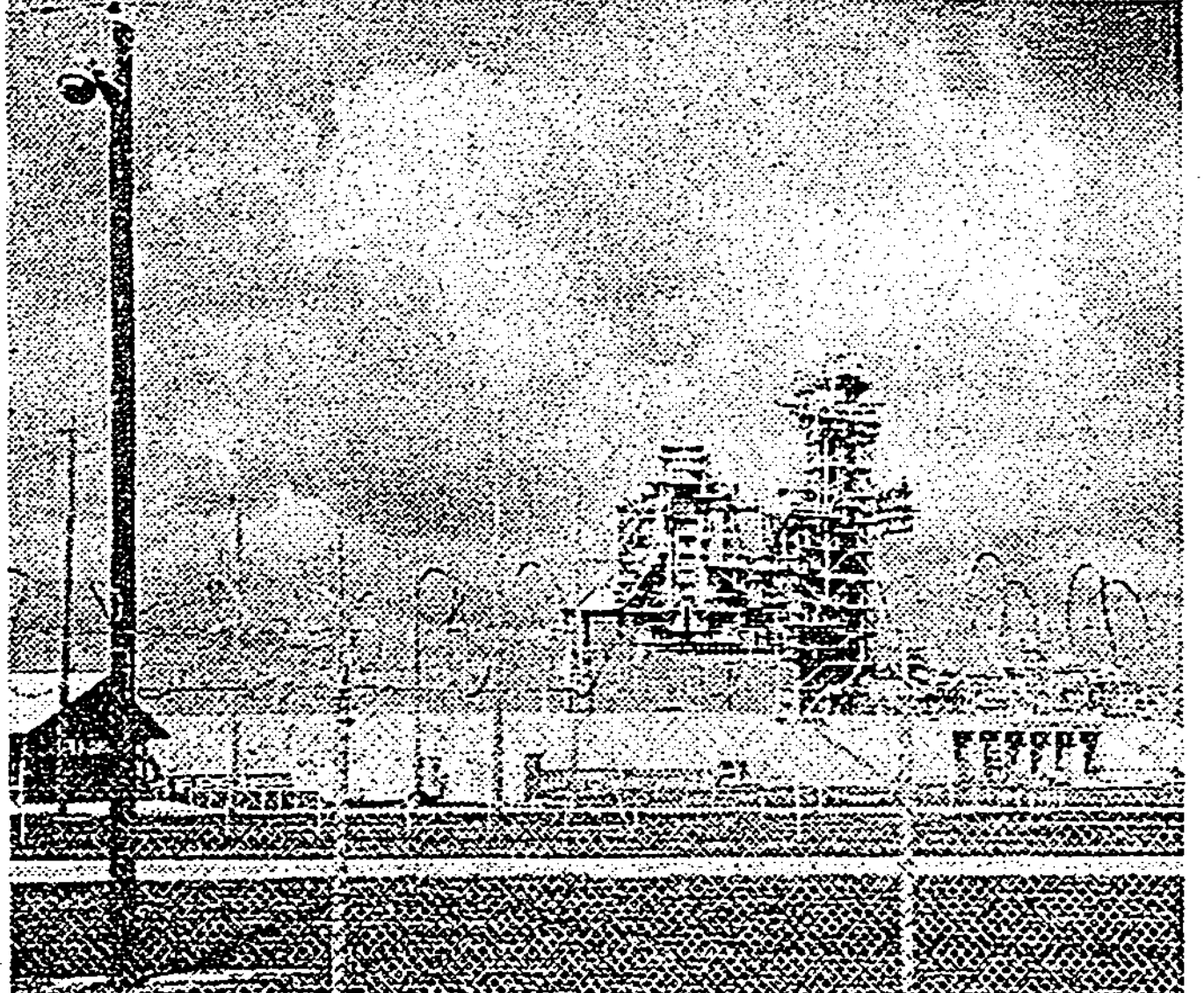
種子島基地の80倍

余りの「大樹有力」を実感

スカパリー号が整備中だった。このNASSAが全精力をつぎ込んでいた。外部者は立ち入り禁止だ。アトランティスは、イスカバリーが成功すると、次回の九月に三度目の宇宙を目指す。



スペースシャトル・アトランティスの機首部分(上、中央)と発射台



七十二坪、予備部分を入れると五千五百坪。ここにシャトルが降りたのは五回、大半はカリフォルニアのエドワーズ空軍基地滑走路が使われている。エドワーズは、最初打ち上げの時だけここに人が集まり、ホテルを設けたものだ。しかし、今はオーランドにティーンワールドができ、観光地にもなった。関連企業も張り付きだ。地域は活性化している。スペースセンターの波及効果については説明した。巨大な球型ビル、スペースシップアリスなどの大パビリオンが立ち並んでいる。中に入ると、映画のスターウォーズに登場するような

のワニやヘビに食べられる。あんな世へ行くのでは、二瞬恐怖が過ぎた。慌たててシャッターを三枚切り、自ら平手を顔をハシバシたたき、蚊を戦いながら、ジープへ駆け込んだ。後で、不衛生の一言は……

七十二坪、予備部分を入れると五千五百坪。ここにシャトルが降りたのは五回、大半はカリフォルニアのエドワーズ空軍基地滑走路が使われている。エドワーズは、最初打ち上げの時だけここに人が集まり、ホテルを設けたものだ。しかし、今はオーランドにティーンワールドができ、観光地にもなった。関連企業も張り付きだ。地域は活性化している。スペースセンターの波及効果については説明した。巨大な球型ビル、スペースシップアリスなどの大パビリオンが立ち並んでいる。中に入ると、映画のスターウォーズに登場するような